

公益社団法人日本オーケストラ連盟  
**2022年度（令和4年度）事業計画**

第11期 2022年4月1日から2023年3月31日まで

2020年以降、日本のオーケストラ界は新型コロナウイルス感染という、これまでに経験のない未知なるものに襲われている。オーケストラ界全体はその活動に大きな影響を受け、その存在自体が危機にさらされ現在に至っている。その間、行政、企業、個人などの多くの方々のご厚意によりこの窮状をしのごうことができた。コロナの影響は、まだしばらく続くことを覚悟しなければならない一方で、次年度はポストコロナも見据えた年と位置づけたい。

## 1. 交響楽に関する調査研究及び資料、情報の収集

### (1) 「日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑 2022」の刊行

加盟楽団の活動状況が概観できるよう公演数やカテゴリーごとの実施状況、楽員や事務局員の構成、財務状況等をまとめて発行している。都道府県別公演数や加盟楽団の自主公演記録はもちろん、加盟楽団の公演に止まらず、来日オーケストラの公演情報を掲載する等もしている。最近ではコロナ禍におけるオーケストラ業界の状況についての座談会を掲載するなど、その時代の中にあって、オーケストラ活動がどのようなものであったかを知る資料として欠くことのできないものに成長している。今後も英語表記の充実も含め、日本におけるオーケストラの活動を把握できるデータ・ブックとしてさらなる拡充を図る。

### (2) 各種レポートの発行

交響楽の振興に関する事項及びオーケストラ運営について調査し、関連するデータや様々な情報を収集し発信することにより、オーケストラの発展の一助とする。

### (3) ライブラリアン会議、ステージマネジャー会議などオーケストラ運営に不可欠な分科会の開催

加盟楽団の楽譜及びステージ担当者、そのほか楽団組織の中の専門分野に携わるものに加え、関連する団体にも参加を呼びかけ、専門的な研究と研修を行う。

### (4) 基礎資料作成の調査・検討

- ア) オーケストラ活動の重要性や必要性をより広く社会に理解してもらうための基礎となる資料を作成する。
- イ) 「子どものためのオーケストラ検証プロジェクト」を引き続き実施する。定点調査を続け、検証を深めて知見を共有する。

## 2. 交響楽振興のための公演及び講習会等の開催

### (1) 「オーケストラの日 2023」の実施

オーケストラの普及、浸透を目的として3月31日をミミにイチバンの語呂合わせから、「オーケストラの日」と2007年に制定した。例年この日を中心に、全国規模で加盟楽団が演奏会、公開練習、バックステージ見学、楽器体験、指揮体験など多様なイベントを実施、オーケストラにより親しんでもらい存在意義を高める一助とする。ここ数年は、新型コロナウイルス流行により、配信を通じた無観客での開催になっている。次年度は、首都圏合同オーケストラによる有観客での、東京文化会館（大ホール）における実施を目指す。次年度も「東京・春・音楽祭」との共催で行う。また、令和3年度末の三菱UFJフィナンシャルグループからの寄付金も活用する。

### (2) 文化庁芸術祭執行委員会主催「アジア オーケストラ ウィーク 2022」の制作

文化庁芸術祭主催公演の一環として開催される事業。企画公募に下記日程にて応募予定。コロナ禍により海外オーケストラの招聘を断念しているが、例年であればアジア諸国からプロフェッショナル・オーケストラを複数招聘し、個性豊かな演奏の競演により日本とアジア諸国における文化交流を促進するものである。本年も海外オーケストラの来日が未だ不透明であるため、状況を見極めて推進する。

日程／2022年10月5日（水）から10月7日（金）まで3日間

会場／東京オペラシティコンサートホール

### (3) 日本オーケストラ連盟 30周年記念事業

創立30周年を迎えた2020年度は新型コロナウイルス感染により記念事業の実施を見送った。以降、新型コロナウイルス流行の収束が見えない中で実施の見通しが立っていないが、改めて当事業の委員会を作り実施内容を検討する。

### (4) 講習会、セミナー等の開催

オーケストラを取巻く危機管理などの諸課題、特に新型コロナウイルス感染のこれまで影響とその対応に関して、講習会及びセミナーを開催。オーケストラ運営の強化に努める。

### (5) 文化庁「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」による新進芸術家海外研修制度の成果「明日を担う音楽家たち」

隔年で実施。複数の器楽奏者の成果をオーケストラ演奏で披露する事業。

令和4年（2023年）2月8日（水）（東京オペラシティコンサートホール）

#### (6) インターンシップの推進

インターンシップ制度は人材育成に貢献し、プロフェッショナル・オーケストラの運営に関しての理解を広めるために重要である。当連盟が窓口となり、音楽大学に限らず門戸を開き、学生がオーケストラで実地研修ができるよう加盟楽団に働きかける。

#### (7) その他の活動

アフィニス文化財団が開催する「アフィニス夏の音楽祭 2022 Nagaoka」に協力する。

- ・開催期間：2022年8月21日（日）～28日（日）長岡リリックホール他にて開催予定

### 3. 青少年に対する交響楽の普及

#### (1) 復興支援演奏会の実施

全国の自然災害などの被災地にある学校や施設などに、加盟楽団から楽員を派遣し、音楽による心の復興に引き続き取り組む。

#### (2) 東京都主催「子どもたちと芸術家の出あう街」の制作協力

オーケストラのみならず多様なジャンルの芸術家がワークショップやアウトリーチ活動などを通して子どもたちに芸術文化を身近に体験してもらうことを目的とした事業。実行委員会委員長職務及び構成団体として協力する。

- ・2023年3月28日（火）東京芸術劇場
- ・企画制作及び演奏団体：東京交響楽団

### 4. 交響楽に関する国際交流

新型コロナウイルス感染における欧米、アジア各国の演奏状況を俯瞰し、危機を乗り越えるために有用な事例収集や、今後に向けての活動に注視し、アメリカ・オーケストラリーグや英国オーケストラ連盟等、国際機関との連携を図りながら、オーケストラ運営に役立つ情報収集及び発信に生かす。

### 5. その他目的を達成するために必要な事業

#### (1) 「日本オーケストラ連盟ニュース」を発行する。(7月、11月、3月 計3回)

オーケストラに関する各種情報などを伝えるほか加盟楽団の公演を掲載し、コンサートガイドの役割も果たす。単なる機関紙に留まらず調査研究等で得られた知見、情報も発信する。

## **(2) 「日本のオーケストラ」作成**

新型コロナウイルス感染における楽団の活動や運営の状況、危機管理など、後世に残すべき知見を形にする。

## **(3) 他の実演芸術団体等との連携**

芸術家会議、日本芸能実演家団体協議会（芸団協）、文化芸術推進フォーラムの一員として、他の芸術団体や日本クラシック音楽事業協会などとも連携を図り、国政との連携を強化する。コロナ禍において築かれた多くの団体とのネットワークを、更に充実させた文化芸術活動のために充実したものとし活用していきたい。

## **6. その他事業**

### **(1) 著作権代行事業**

一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）との協定による、加盟楽団の演奏会において使用する音楽著作物の包括的申請と使用料の徴収及び支払を行う。

### **(2) 共同広告事業**

演奏会の宣伝媒体の利用形態が変わり利用がない状態が続いるため、実施しない。

### **(3) 互助会事業**

指揮者・小澤征爾氏、チェロ奏者の故ロストロポーヴィチ氏およびNHK交響楽団が無償出演したコンサートの収益金を原資に、病気や怪我で3ヶ月以上活躍できない加盟楽団に所属する楽員、職員へ無利息での貸付制度による互助事業を行う。

今後のより有効な活用法についても検討する。

以 上